

## なかよし運動会が教えてくれたこと

附属小の職員玄関を入ると季節ごとに花が活けてあります。丹野さんが準備してくれているものです。先日学校においでいただいた方も目に留めて頂き「すてきですね。」と褒めていただきました。忙しいと何気ない日常の気配りにも気づかないでしまうことがあります。自戒を込めて、このようなみなさんの温かい気配りに感謝したいものだと、思いました。

20日(水)には延期していた奉仕作業が43名の保護者の方々を迎えて行いました。1年生校庭と昇降口花壇に別れての作業になりました。子どもたちも頑張って花壇の整備に取り組んできたのですが、やはり大人の手にはかないません。予定の2時間を超える作業となりましたが、ご覧の通りきれいな花壇に生まれ変わりました。ご協力いただいた保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。

なかよし運動会に向けた練習も佳境を迎えてきました。子どもたちや先生方のエールや声援にも力が入ってきました。

ここからは子どもたちの「心」をいかに育てるか、が問われますね。

でも、正直に言います。私は担任として学級の勝ちや組集団の勝ちにかなりこだわっていました。そのために私たち教員も燃えることが附属小のなかよし運動会を支える大切な文化の1つだ、とも思っていた時期もありました。

そんな私に大きな影響を与えたのは6年生で担任したK君の存在でした。学校の来るのが難しかったK君を何とか運動会に参加させたい、あの手、この手で子どもたちも巻き込んで迫りました。運動会当日、リレーに私服で参加できたK君の姿は今も忘れられません。

この出来事がきっかけになり、教師として大切なことは運動会が終わった後に何を子どもたちに残したか、ということではないかと思うようになりました。

朝の校庭の景色が変わり、どんぐり山で遊ぶ子どもたちの姿が減って、リレーや騎馬戦、綱引きなど運動会の種目の練習に取り組む子どもたちの姿が多く見られるようになりました。子どもたちの数だけドラマがあって、一人一人が主役になれるのがなかよし運動会です。昔の子どもたちのことを思いながら、校長室から見える風景を楽しんでいます。



(文責：副校長 手代木)